

2024年6月16日（聖霊降臨後第4主日、特定6、B年）

牧師メッセージ

「目には見えなくても」

（マルコによる福音書4：26-34）

司祭ヨセフ太田信三

イエスは2つのたとえ話によって、目には見えなくても、神の国が必ず実現することを教えました。1つ目のたとえでは、神の国は蒔かれた種のように「ひとりでに」成長すると言います。人は種を蒔くことはできますが、種を實に変える力はありません。種自体が成長する力を秘めているのです。実が熟し、収穫できるようになるのは、種のうちに働き続けている神秘的で大きな命の力によります。イエスはこのたとえ話によって、目には見えない力を秘めた種が成長するように、わたしたちの目には見えなくても、神の国は確かに、着実に成長していると伝えていきます。

2つ目はからし種のたとえ話です。とても小さなからし種ですが、成長すると鳥が巣を作るほどに大きくなります。これは驚くべきことです。神の国のはじまりは、からし種のようなものだとイエスは言うのです。はじめは小さくとも、からし種が大きな木に成長するように、神の国も世界に広がるというのです。イエスのお働きはイスラエルの小さな村から始まりました。それが今や世界中に福音が伝えられています。イエスは大人数をまとめて先導するのではなく、毎日出かけ、一人ひとりと出会いました。途方に暮れる地道さです。この世的に見れば、どう考えても非効率です。しかもそのお働きは、十字架上の死によって完全に終わったと思われました。非効率であるばかりか、非力でした。しかしどうでしょう。その信仰は消えるどころか、福音は今、全世界に届けられているのです。小さなからし種ほどで良い。わたしたちの働きが小さく、非効率と思われようと、非力と言われようと、それが神の御心であるならば、神はその計り知れない力によって、確かに、必ず実りをもたらしてください。

わたしたちにできることは、農夫が雑草をとり、土を耕すように、神の力が働くための土壌を整えることです。農夫は毎日汗をながして農作業をします。目には見えなくても、種の力を信じているからです。わたしたちも農夫のように、目には見えなくてもそこに神の力が確かに働き、神の国が必ず実現することを信じて日々の務めに向かいたいと思います。その働きがからし種ほどに小さなものでも、神は必ず実りをもたらしてください。

何かを決断しようとしたり、歩みだそうとする時、目に見えるものばかりを信じるのではなく、不確かに思えても、そこに神の心があるのかどうかをこそ見つめたいと思います。そしてそうであると感じられるならば、神の力を信じて歩み出す者でありたいと願います。